

吾妻山の火山活動解説資料

仙台管区气象台
地域火山監視・警報センター

＜噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）が継続＞
吾妻山では、低周波地震が増加しています。今後の火山活動の推移に留意してください。

【防災上の警戒事項等】

大穴火口や燕沢火口列周辺では、火山ガスの噴出が認められており熱活動も継続していることから、火山灰や高温の土砂、熱水等が突発的に噴出する可能性があります。また、硫黄平橋周辺でも火山ガスに注意が必要です。地元自治体の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況（図1～3、5）

吾妻山では、低周波地震が増加しています。大穴火口付近が震源と推定される低周波地震の発生頻度が2月頃からやや上がり、4月12日からさらに上がっています。3月26日から本日（25日）15時までの30日間の低周波地震の総数は39回となっています（速報値）。火山性微動は観測されていません。

浄土平観測点（大穴火口から東南東約1km）に設置している傾斜計では、3月中旬以降、西（大穴火口）方向の隆起を示す緩やかな変化がみられています。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページで閲覧することができます。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php

資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、東北大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の「数値地図50mメッシュ（標高）」を使用しています。

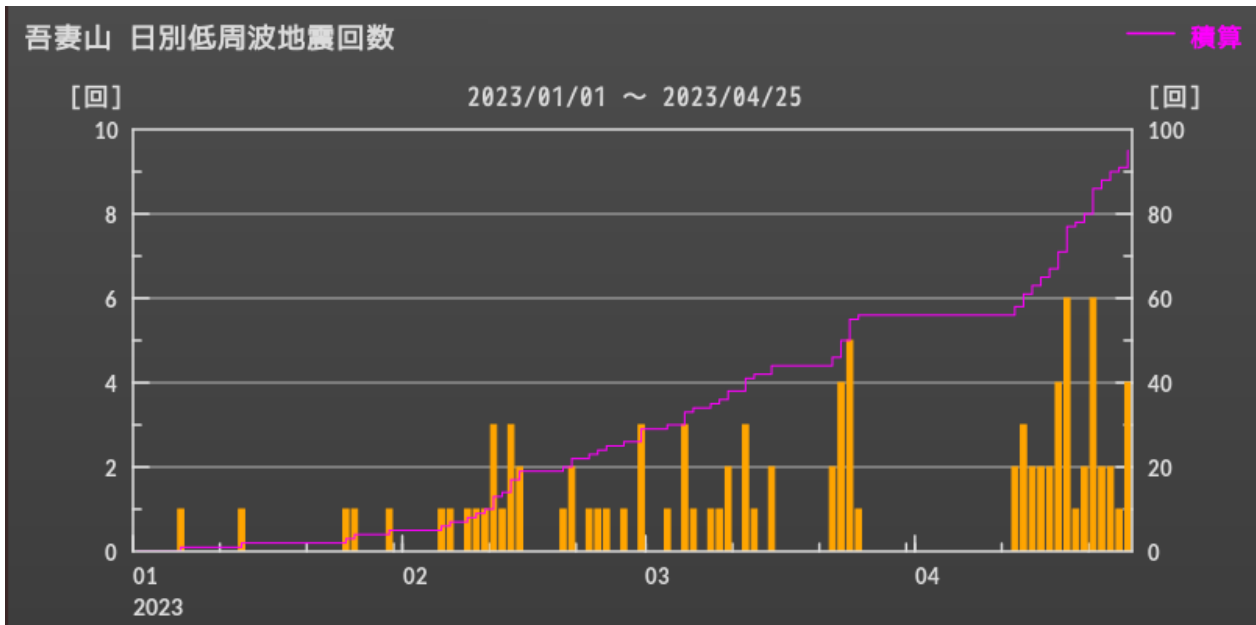


図1 日別低周波地震回数（2023年1月1日～2023年4月25日15時）

吾妻山では、低周波地震が増加しています。大穴火口付近が震源と推定される低周波地震の発生頻度が2月頃からやや上がり、4月12日からさらに上がっています。

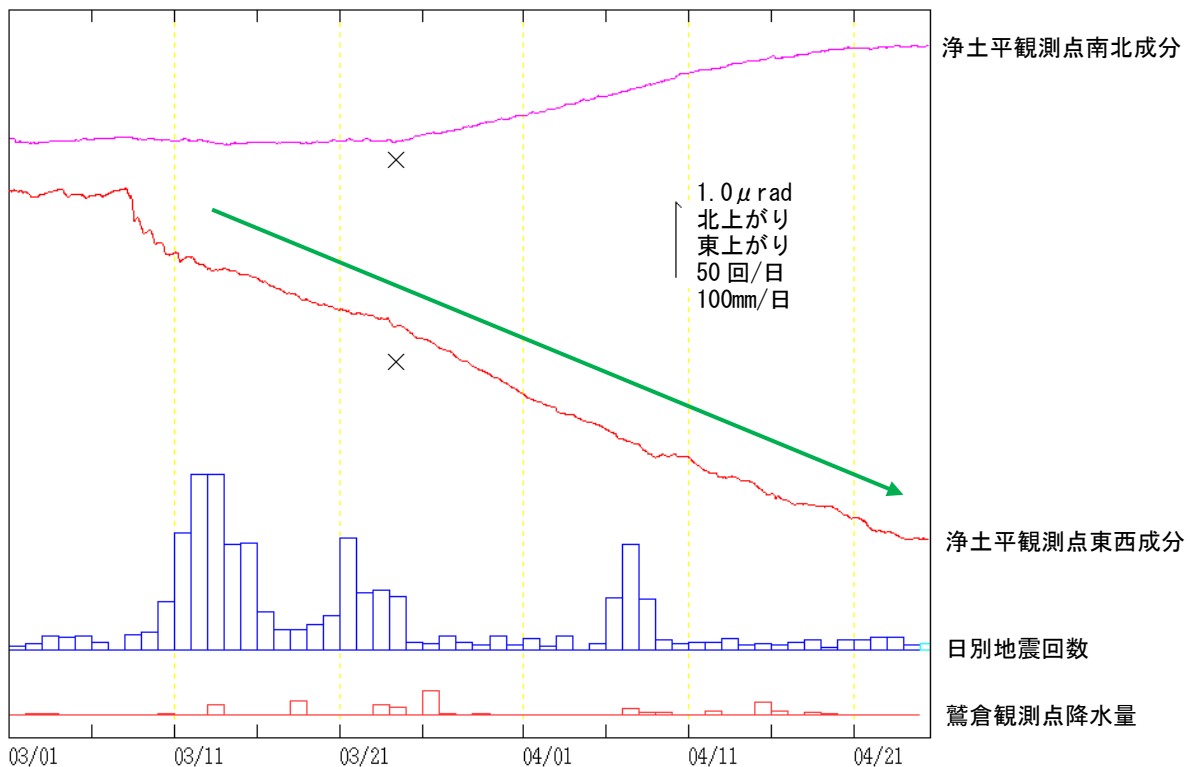


図2 吾妻山 浄土平観測点における傾斜変動
(2023年3月1日～4月25日13時、時間値、長期トレンド・潮汐補正済み)

- ・ $1 \mu\text{rad}$ (マイクロラジアン) は、1 km 先が 1 mm 上下するような変化量です。
- ・ x : 3月24日頃からは融雪の影響と考えられる変化が含まれています。

浄土平観測点に設置している傾斜計では、3月中旬以降、西（大穴火口）方向の隆起を示す緩やかな変化がみられています（緑矢印）。

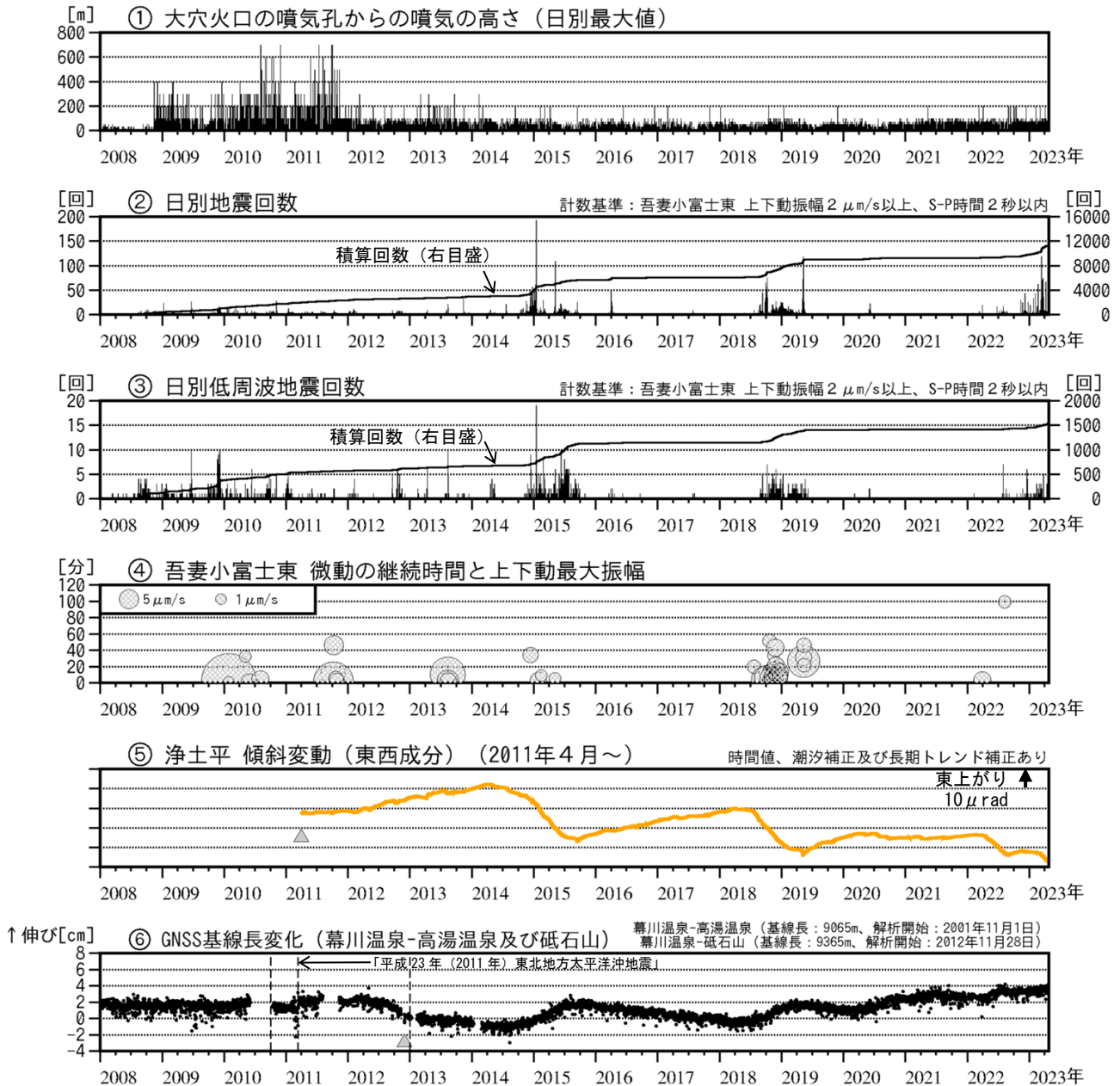


図3 吾妻山 火山活動経過図 (2008年1月～2023年4月25日13時)

- ・⑥は図5のGNSS基線③に対応しています。
- ・⑥は「平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震」に伴うステップを補正しています。
- ・⑥高湯温泉観測点は約300m東に位置する砥石山観測点に移設しました。
- ・⑥GNSS基線長は2010年10月及び2013年1月に解析方法を変更しています。
- ・▲：解析開始を示します。

大穴火口付近が震源と推定される低周波地震の発生頻度が2月頃からやや上がり、4月12日からさらに上がっています。その他の観測項目に顕著な変化はみられていません。

先月までの活動状況については火山活動解説資料(令和5年3月)をご覧ください。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php

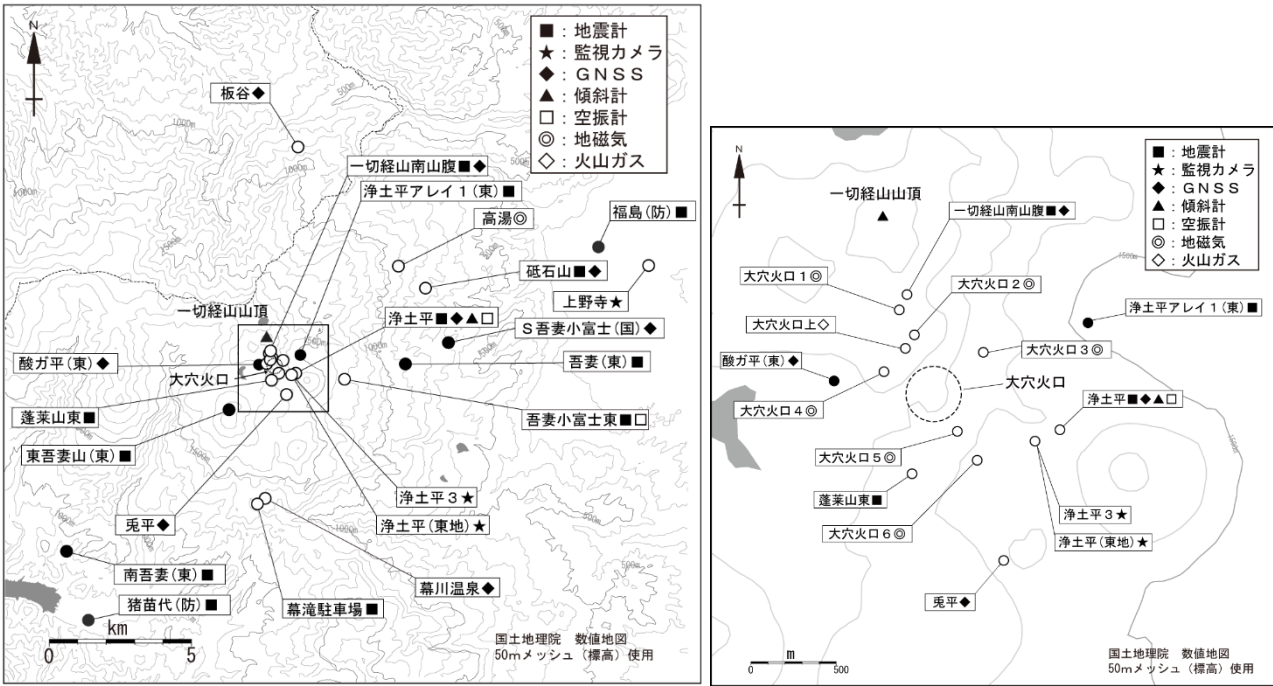


図4 吾妻山 観測点配置図

白丸(○)は気象庁、黒丸(●)は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
 (東地)：東北地方整備局 (国)：国土地理院 (東)：東北大学 (防)：防災科学技術研究所
 左図の四角囲みは右図の表示範囲を示しています。

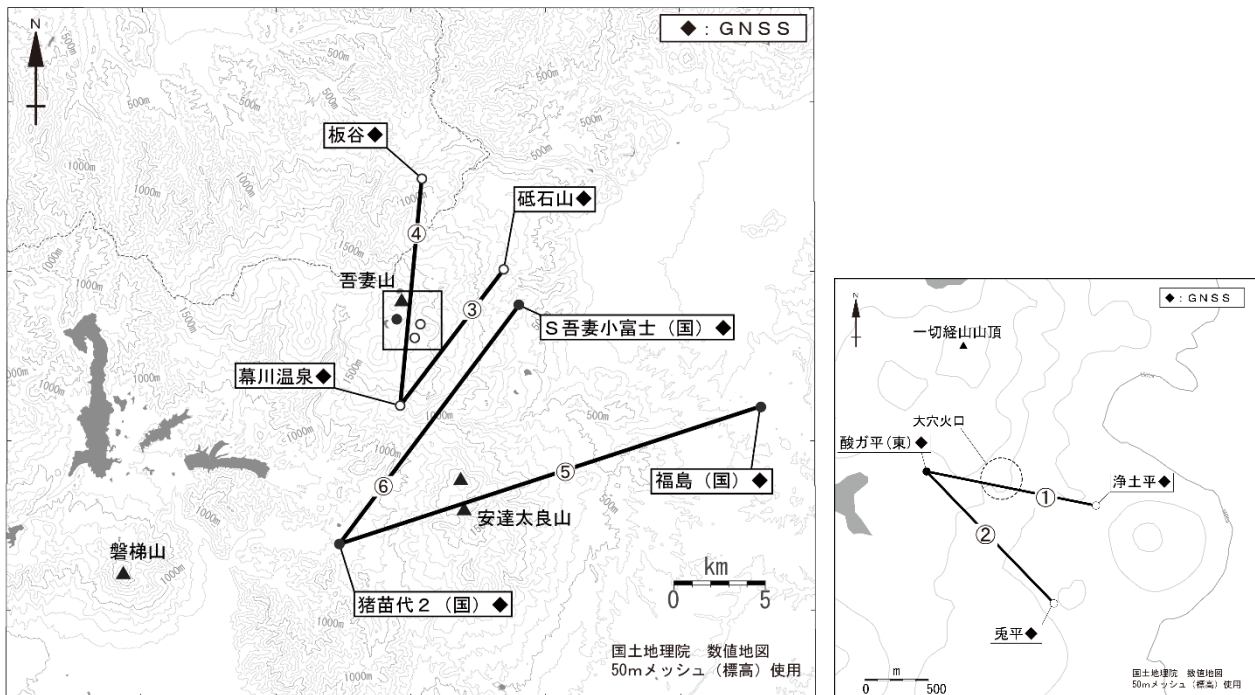


図5 吾妻山 GNSS 観測基線図

白丸(○)は気象庁、黒丸(●)は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
 左図の四角囲みは右図の表示範囲を示しています。 (国)：国土地理院 (東)：東北大学